

## 第4節 各教科等における取組

### 1 日々の教育活動とキャリア教育

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される。この点について、平成23年1月にとりまとめられた中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」は次のように指摘している。

キャリア教育は、現在の学校教育を見直す理念を示すものであることから、その活動は特定の新しい教育活動を指すものではなく、学校教育全体の活動を通じて体系的に行われる必要があり、特に、子ども・若者が実社会を体験し、それを基に自ら考える活動が不可欠である。しかし、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動等の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されている。

（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日））

効果的なインターンシップの在り方については本『手引き』第2章第6節において詳しく解説したが、上に引用した答申が指摘する通り、インターンシップをはじめとする体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものととらえることは誤りである。日々の教育活動の中で、一人一人の生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促していくことが求められている。それぞれの教員が、キャリア教育の視点から自らの教育実践を幅広く見直すことによって、各学校の進むべき方向が共有されるとともに、教育課程の改善が促進されるのである。

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動が、それぞれ社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力としての「基礎的・汎用的能力」の育成にどのように貢献できるのかを考え、実践に移すためには、まず学習指導要領に示される各教科等とキャリア教育との関連性について正しく理解し、その上で、各教科等の特質と単元や題材などの内容を生かした創意・工夫が必要となる。また、各教科等における取組は、相互に関連性を持たないままでは効果的な教育活動とはなりにくいことから、取組の一つ一つについて、その内容を振り返り、相互の関係を把握させたり、それを適切に結びつけさせたりしながら、より深い理解へと導くような取組も強く期待されている。

### 2 本節の構成と活用の方法

本節では、それぞれの教科等に分かれた教員研修などの機会での活用が促進されるよう、各教科等について4ページ構成を基本として、コンパクトにまとめた。まず前半2ページでは「各教科等を通じたキャリア教育の基本的な考え方」と「入学から卒業までを見通した各教科等の指導内容とキャリア教育」について解説した。指導内容との関連を整理するに当たっては、今後のキャリア教育実践にとって中核となる「基礎的・汎用的能力」の育成に焦点をあてている。また、後半のページでは、特定の単元や題材などに絞って実践例を示した。特に教科については、他教科における学習と関連づけた指導について簡略にまとめた欄を設け、教科間の取組を適切に結びつけるための糸口を示した。各学校においては、ここに示した各実践例を、いわば「たたき台」として、それぞれの学校の特色や生徒の実態等に即したキャリア教育の推進に役立てていただきたい。

また、各教科等を通じたキャリア教育の実践経験の長短にかかわらず本節を活用していただけるよう、できるだけ平明な文章表現とし、文体も敬体に統一した。

## 1 国語科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

キャリア教育は、言語活動の充実、それを通して育成する「生きる力」と深く関わっています。言語活動は、今回の学習指導要領の改訂で、各教科等において充実することが求められています。国語科では、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることを重視しています。とりわけ高等学校国語では、従前、社会人として生きるために必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることを大切にしてきました。その理念を今回も継承しています。

高等学校国語の教科の目標は「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」です。国語科の指導は、この目標を実現するために行われます。そして、この目標を実現することによって身に付く総合的な言語能力は、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」において、重要な役割を果たすこととなります。その意味で、国語科の指導は、生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成するための基盤を身に付けさせることでもあるのです。

以下は、『高等学校学習指導要領解説 国語編』で各科目の目標について解説している部分から、キャリア教育に関わる記述を抜粋したものです。

### 「国語総合」

人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力すなわち伝え合う力を高める（後略）。

### 「国語表現」

変化の激しい現代社会においては、この先どうなるのかを予測し、どうすべきかを検討し、見通しをもって行動するために、また豊かな感性や情緒をはぐくむために、表現の指導においても想像力を伸ばすことが大切である。

### 「現代文A」

言語文化として価値が高く、現代の文化や思想に深くかかわるような文章はもちろん、現代の社会生活で必要となる実用的な文章や、翻訳の文章、近代以降の文語文及び演劇や映画の作品なども含めて考えることが大切である。

### 「現代文B」

社会生活においては、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するということが日常的に行われ、それによって自らを高めたり、人間関係を築いたりしていく。理解と表現の能力を高め、生徒の内面を豊かに形成することは、そのために必要不可欠なことである。

### 「古典A」

急速に国際化の進む社会で生きていくに当たって、諸外国の伝統と文化を理解しそれを尊重するためにも、我が国の伝統と文化について自覚し、我が国と郷土を愛し、それを尊重する態度を育成することが大切となる。

### 「古典B」

古典は、適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべきものであり、そのためには、それを読む能力が求められる。（中略）古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方には、現代と共通するものがあると同時に、古文には古文特有の、漢文には漢文特有のものもある。

## 2 高等学校における国語科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

国語科は、「国語総合」「国語表現」「現代文A」「現代文B」「古典A」「古典B」の6科目から構成されています。このうち、共通必修科目である「国語総合」は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項からなる、総合的な言語能力を育成する科目です。他の5科目は、「国語総合」の内容を、科目の性格、特色に応じて発展させた選択科目です。

それぞれの科目の目標の実現、内容の習得を図ることが、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点から見た「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成にも資することが、下の表から分かります。

国語科で育成する言語能力が基盤となって、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等における学習が展開されます。そのためには、国語科から学校の全教職員に向けて、国語科で指導している内容を周知する必要があります。それには『高等学校学習指導要領解説 国語編』の付録5、6の系統表が役に立ちます。また、各教科等における言語活動の状況について把握し、国語科の指導に生かしていくことも大切です。

### 「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する「国語総合」の指導事項

領域／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。</li> <li>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。(再掲)</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</li> <li>文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。</li> <li>文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。(再掲)</li> </ul>

### 3 実践例

#### 《国語総合 小説の読みを踏まえ、考えを深めるために話し合う》

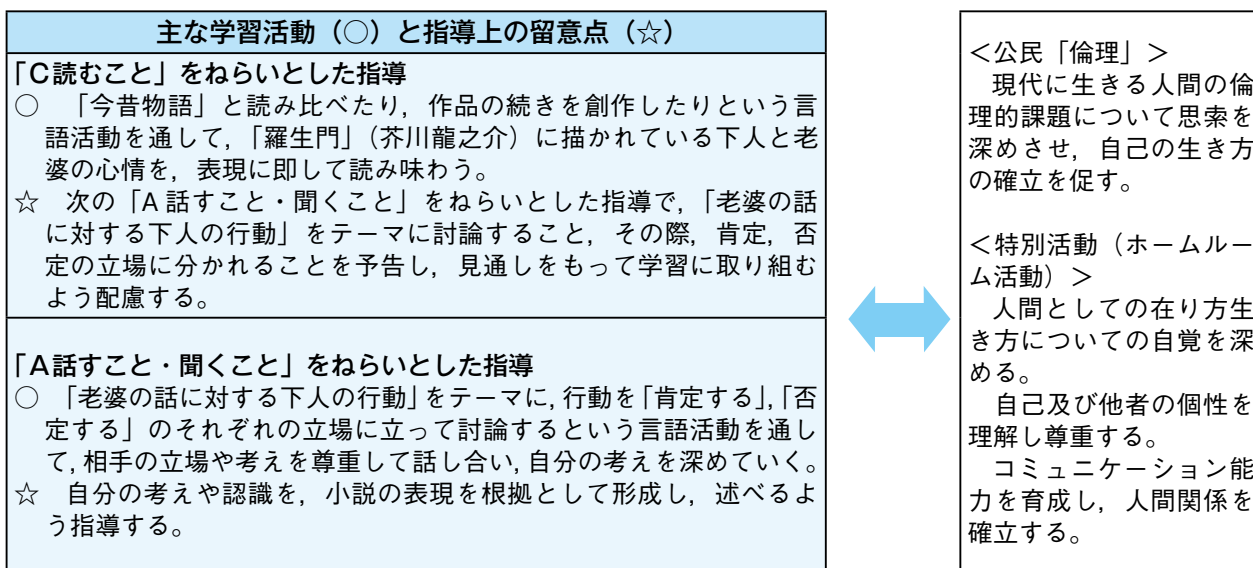
##### ■ ねらい

- ・ 文章に描かれた人物の心情を、表現に即して読み味わう。  
(新高等学校学習指導要領「国語総合」の内容「C読むこと」の(1)のウ)
- ・ 考えを深めるために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。  
(新高等学校学習指導要領「国語総合」の内容「A話すこと・聞くこと」の(1)のウ)

##### ■ 本実践とキャリア教育

- ・ 上記のねらいで指導を行う場合、人間関係形成・社会形成能力の育成に資する。
- ※ 高等学校国語では、学習指導要領の内容の(1)の指導事項について指導する。前ページの『『基礎的・汎用的能力』の育成に関連する『国語総合』の指導事項』の表でも分かるように、取り上げる指導事項によって、キャリア教育に係る能力も決まる。国語科において指導事項の重点化を図るように、キャリア教育の基礎的・汎用的能力についても、単元等ごとに重点化して意識的、計画的に指導することが大切である。

#### 《全体構想》



※ 本構想には指導時数を示していない。これは、高等学校においては学校や生徒の実態が多様であり、それぞれの学校で、生徒の実態を踏まえて適切な指導時数を定めることを促すためである。次ページも同様。

#### 更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

地理歴史「日本史A」

「羅生門」は古典を題材にしていますが近代文学であり、現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点と結び付けることもできます。

《指導のねらい》

立場の異なる発言も、根拠が明確で筋道が通っていれば受け入れ、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点についてまとめることなどを通して、考えの相対化を図る。

《「A話すこと・聞くこと」をねらいとした指導の展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>下人の行動について、自分は肯定・否定のどちらの立場をとるか、文章中の表現を根拠にしてまとめてきた「発表メモ」を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 多角的に検討し、根拠に基づいて自分の考えを明確にすること。</li> </ul>
展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>異なる立場の者とペアで発表し合い、考え方や根拠に矛盾がないかどうかを検討する。</li> <li>同じ立場の者で5人程度のグループを作る。</li> <li>グループで各人が発表し、それぞれの意見の根拠を整理、分析し、グループとしての考え及びその根拠を模造紙にまとめる。</li> <li>肯定・否定各1グループずつで、③でまとめた模造紙を示しながら討論する。</li> <li>他のグループの者は、④の発表・質問・回答・反論等を聞き、相互評価表に記入する。(④、⑤を繰り返し、全グループが発表する。)</li> </ol> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[個人] --&gt; B[全体]     B --&gt; C[グループ]     C --&gt; D[ペア]     D --&gt; A             </pre> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人の考えを充実させる時間を確保する。</li> <li>☆ 相手の考えを尊重しながら、グループの考えをまとめている。</li> <li>○ 相手の示す根拠の適否を確かめるための質問などを促す。</li> <li>○ 相互評価表は、よかった点や改善した方がよい点を具体的に記述させるようにする。また、そのための時間を確保する。</li> <li>☆ 進んで自分の考えを述べたり、異なる考えを聞いたりしようとしている。</li> <li>☆ 異なる立場の考えを尊重して話したり、質問したりしている。</li> <li>◎ たとえ自分とは異なった考えであっても、根拠が明確で筋道が通っている考えは尊重すること。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価表をもとに、各グループで、自らの考えと根拠について見直す。</li> <li>一人一人が、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 相互評価やグループでの話し合いを通して自分の考えを深めている。</li> </ul>

《実践のポイント》

国語科で育成する言語能力が基盤となって、各教科等の学習指導が展開されます。根拠に基づいた自分の考えを論理的に伝えたり、相手の立場や考えを尊重したりすることは、その第一歩であり、生涯にわたって多様な他者との人間関係を形成する上でも不可欠です。

### 1 地理歴史科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

#### (1) 地理歴史の学習で身に付ける力

地理歴史では、様々な社会的事象を歴史的過程と地域的特色の角度から考察し、理解する力を身に付けることを目指しています。国際的な相互依存が進む一方、価値観の多様化の波が押し寄せている現代社会では、諸地域相互の歴史的過程及び地域的な特色を関連付けて理解することが求められているのです。広く知識の習得とともに、社会の変化に自ら対応する能力や課題を設定し追究・解決していく力を養うことが重要になります。

#### (2) キャリア教育の視点から見る地理歴史

各科目においてキャリア教育と結び付くものは多く挙げられます。地理や歴史の知識・概念・技能を習得することで、社会的事象を捉えることができます。自らが国家・社会の形成者であるという視点に立って思考・判断することは、自己のキャリアの形成につながります。社会的事象を多面的・多角的に捉える力、直面する課題を探究するための資料の収集と分析・考察、その過程や結果を表現する力も、キャリア育成を支える要素となります。主体的に社会に参画する資質や能力を育成することが各科目において重視されています。

以下は『高等学校学習指導要領』（平成21年3月告示）に示された地理歴史の各科目の目標であり、下線部分についてはキャリア教育との関わりの中で捉えることができます。

#### 高等学校学習指導要領 地理歴史各科目の目標《抜粋 下線は引用者による》

**世界史A**：近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民として自覚と資質を養う。

**世界史B**：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民として自覚と資質を養う。

**日本史A**：我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

**日本史B**：我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

**地理A**：現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

**地理B**：現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 高等学校における地理歴史科の指導内容とキャリア教育 －「基礎的・汎用的能力」を視点として－

高等学校におけるキャリア教育の目標と地理歴史の学習内容とは、結び付くことが多いといえます。知識を積み重ねることで、我が国と世界との関係を地理的・歴史的な視点から捉えることができます。そして、思考・判断をする中で、自己が社会を構成する一員であるという自覚が深まり、異なる価値観を肯定的に認める態度が養われると考えられます。また、その学習過程で各種資料を収集・選択し、読み取り解釈すること、観察・見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりするなどの作業的、体験的な学習を取り入れることで、情報を適切に活用する力や、諸事象を公正に判断する力、他者との望ましい人間関係を構築する力などが身に付くと考えられます。

分野／能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
地  理	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題追究的な学習の中で自分の考察した意見を相手に的確に伝える。</li> <li>他者の多様な意見を受け入れて考えを深める。また、疑問に思うことを質問する。</li> <li>博物館・資料館などの調査・見学活動を通し、地域の人々と交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的な見方や考え方を踏まえ、諸事象の空間的な規則性や傾向性を捉える。</li> <li>諸地域を比較し関連付け、一般的共通性と地域的特殊性の視点から捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した地理情報を目的に合わせて選択・処理し、地域性を読み取り、比較し、関連付け、変容を捉える。</li> <li>現代世界が抱える地球環境問題などの諸課題を、地域性を踏まえて考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的事象の背景を地域の枠組みで捉え、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みに着目し自己の役割を追究する。</li> <li>地理的事象の変容を捉え、地域の課題や将来像について考える。</li> </ul>
歴  史		<ul style="list-style-type: none"> <li>諸地域世界の形成、交流と再編、結合と変容、及び一体化の過程を政治・経済・社会・文化など幅広い見方で捉える。</li> <li>日本列島内の地域的差異を、地域の特色や相互の関係性などの理解を通し、地域社会と国家の歴史的な関わりから捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学技術の利用の在り方や宗教・民族を巡る紛争などの諸課題を、歴史的背景を踏まえて考察する。</li> <li>年表・地図の他にも文献資料や画像資料、映像資料などを活用し、様々な視点から考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的事象の背景を考察し、世界との関連の中で日本及びその属する地域の将来像を考え、自己の役割を追究する。</li> <li>歴史上の人物の生き方について、時代背景などを踏まえて考察し、自己の生き方や役割、将来設計を考える。</li> </ul>

世界史、日本史、地理の学習をすることで、今日の国際社会の成り立ち、諸地域間の関わり、そして我が国が世界とどのように関わってきたのかを、過去から現在、そして未来へと見通す力が養われます。それは、変化を続ける社会の中で、生徒がこれから直面する様々な課題に対応し、主体的に行動する基盤になります。国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質の育成が、生徒のキャリア設計に結び付きます。

### 3-1 実践例

#### 《日本史B》近代文化の発達

##### 近代国家形成期と個人の生き方

###### ■ ねらい

近代国家の形成に向けた改革や諸外国との関係の変化に対し、日本人はどう向き合い、生き方を模索していったのかを考察する。森鷗外を取り上げ、歴史的事象との関わりを踏まえながら、政治や文化が個人の生き方に与えた影響と、その時代に属した個人が社会とどのように向き合って生きていったのかを学ぶことで、自己のキャリア形成を考える態度を養う。

###### ■ 本実践とキャリア教育

本單元では各時代の政治・経済・文化などが個人に与える影響を、歴史上の人物の生き方を通して考察していきます。個人が時代とどう向き合い、生きていったのかに着目させることは、自己の生き方や役割、将来像を考えるきっかけになると思われます。グループ学習で展開することにより、複数の資料の収集や読み取り、まとめから発表までの活動を通し、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」の育成に関する領域を育成することができます。

##### 《全体構想》

主な学習活動	時数
近代文化の発達 教科書や資料集を解説し概要を捉える	2
グループ調べ学習（図書館・パソコン室） 森鷗外を取り上げ、「年譜」「作品」と「明治期の政治・経済・文化の年表」の各項目ごとに資料を収集し、内容を対比させ、関連性を考察し、年表などに整理する。その成果をもとに感想をまとめる。 グループまとめ パワーポイントや用紙にまとめる。	2
グループ発表 要点を押さえた発表をするとともに、他のグループからの発表による気付きや疑問を意見交換する。	1

<総合的な学習の時間>

- ・ 目的に応じた手段で情報収集活動を行う。
- ・ 問題解決や探究活動を協働で行い発表に向けて取り組む。

##### 更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

国語科において森鷗外の作品を取り上げ、作品創作の背景に歴史的事象がどのように関わり、森鷗外の生き方や考え方が作品にどう反映されているかを、作品を通して読み取っていく。



### 《本時のねらい》

- ・ 各自調べた資料を合わせて検討し、項目ごとにまとめる。
- ・ 効果的に伝える資料作成の検討をする。

### 《展開》（4／5時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	各自調べた資料の検討と発表準備の手順を確認する。	○ 限りある発表時間の制約の中で効果的な発表になるようグループ内で内容を精選し、重点化するよう伝える。
展開	グループごとに作業開始 ・ 持ち寄った資料の整理や関連性を考察し、意見交換を行う。 ・ レポートの項目として前掲した項目の他にも必要な項目などを検討する（「エピソード」など）。 ・ まとめに向けての作業分担を行い、作業を開始する。	◎ 資料の考察から明治期の歴史的事象と森鷗外の生き方及び作品との関わりを考察する。 ☆ 資料を活用して、明治期の歴史的事象と森鷗外の生き方及び作品の的確な関連付けができていないか。 ◎ 各自の資料に対する意見交換に意欲的に参加する。 ☆ 意欲的に意見交換に臨む姿勢が見られたか。 ◎ まとめの過程で、森鷗外への感想と自己の生き方、将来設計などに目を向ける。
まとめ	次時に発表することを伝える。	発表に対する評価や感想の提出を求める。

### 《実践のポイント》

- ・ **歴史上の人物を深く掘り下げる。**  
通常の学習では個々に取り上げがたい人物に焦点を当てることで、当時の時代状況や生き方の転機など、実在の人物として感じることができます。自己の生き方と比較する対象として、歴史上の人物も参考にする機会になります。
- ・ **歴史的事象を個人の生き方の視点から捉える。**  
歴史的事象がどのように個人の生き方に影響を及ぼしているのかを、年表などを作成し、対比させることで明らかにすることができます。
- ・ **学習形態を工夫する。**  
個々人で作成することも可能ですが、グループで学習することで、自分とは異なる調査方法や考え、感想に気付き、自己の意見が深まる効果があります

## 3-2 実践例

### 《地理A》地球の課題の地理的考察

#### 食料問題を考える

##### ■ ねらい

地球の課題である食料問題を大観するとともに、具体的な事例を通して、各地域でその現れ方が異なっていることを理解させる。また、それらの解決に当たっては持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させ、地球の課題について自ら考えようとする態度を養う。

##### ■ 本実践とキャリア教育

本単元では食料問題を通して、諸地域での生産や輸出入などの経済活動と日本とのつながりを考察するとともに、諸地域が抱える食料問題を学び、解決に向けた国際協力の必要性を理解していきます。食料品の原産国表示などを例に挙げながら、日本の食料が諸地域からの輸入に支えられて成り立っていることに気づき、その中で人口や資源、エネルギー問題、先進国と発展途上国との問題、環境問題がそれぞれ相互に関連しあっていることを捉えていくことで課題の背景の複雑さも理解していきます。課題に対し、多面的に捉える視点を持ち、解決できる方法を見いだしていく姿勢を養うことが、自己の将来像の形成にも役立つと思われます。

#### 《全体構想》

主な学習活動	時数
食料供給量などの資料を提示し、現在どのような課題があるかをクラスで読み取り、飽食と飢餓などの地域間の偏りなどの概要を捉える	2
「日本の食料問題」「飢餓と飽食」「食料貿易と援助」についてグループで1つのテーマに沿って資料を収集・分析し、どのような課題があるかを考察し、意見交換を進めて、「資料から読み取れること」「資料から予想されること」「問題が生じている背景」「展望と解決策」の項目ごとにパワーポイントなどでまとめる。	2
<b>グループ発表</b> 要点を押さえた発表をするとともに、他のグループからの発表による気づきや改善策を発表する。	2



<p>&lt;総合的な学習の時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的に応じた手段で情報収集活動を行う。</li> <li>・ 課題に向けた問題解決や探究活動を協働で行い発表に向けて取り組む。</li> </ul>
--

#### 更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

家庭科における「食文化」の学習で日本及び世界の食文化の知識と結び付けることで食文化圏の地域的な特徴を理解する。また、食生活の国際化、変化についての理解を深める。

### 《本時のねらい》

- ・ 食料問題について、選択した資料から情報を読み取り、問題が生じている背景や課題を考察する。
- ・ 地域間の格差やつながりを捉えながら、日本との関わりを考察する。
- ・ グループ内での意見交換で他者の意見を受け止めるとともに、自分の意見を発表する。

### 《展開》（4／6時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	グループごとにテーマの確認と本時の活動内容の確認	○ 限りある発表時間等の制約の中で効果的な発表になるようグループ内で内容を精選するよう伝える
展開	グループごとに作業開始 ・ 資料から読み取れる情報を検討し、意見交換を行う。 ・ 日本との関わりを考える。 ・ 今後の課題や改善策を、地球的な視野と地域的な視野とに分けて、具体的な取組としてまとめる。 ・ まとめるための作業分担を行い、作業を開始する。	◎ 収集した地理情報を目的に合わせて選択・処理し、地域性を読み取り、比較し、関連付ける。 ☆ 意欲的に意見交換に臨む姿勢が見られたか。 ◎ 課題の背景や要因を地域ごとの枠組みで捉え、歴史的視点や環境条件、他地域との結び付きなどの視点と結び付け、改善策や展望を追究し、自らの生き方を考える。  ◎ 日本と他地域とのつながりの構造を理解し、国際社会の一員としての自覚を促す。 ☆ 課題について多面的に捉えることができたか。
まとめ	次時に発表することを伝える。	○ 発表に対する評価や感想の提出を求める。

### 《実践のポイント》

- ・ 地球的課題としての食料問題を、地球的視野と地域的視野との両面から捉え、他の地球的課題とも結び付いていることに気付かせる。

身近な食料品の原産国や原材料などを例にすることから、日本の食卓と世界のつながりを考え、世界の諸地域の問題が生じている背景・課題を考察し、食料問題について深く考える機会とします。地域の歴史や政治、経済活動などの条件が幾層にも絡むことに気付かせ、地球的視野と地域的視野の両面から改善策や展望を考えさせます。

- ・ 学習形態を工夫する。

個々人で作成することも可能ですが、グループで学習することで、自分とは異なる調査方法や考え、感想に気付き、自己の意見が深まる効果があります。

## 1 公民科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1) 公民科の学習で身に付ける力

公民科においては、広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを目標としています。

公民科の学習で得られる現代の社会についての知識は、この社会において生きていく際の基礎となりますが、公民科に求められているのはそれだけではないことに留意しましょう。知識や理解をもとに、自らはどのように生きようとするのか、いかに国家・社会をつくっていくべきか、主体的に考察できるような学習の展開が求められています。知識の習得にとどまらず、社会的現象について客観的かつ公正なものを見方を育成するとともに、自ら調査する力や、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現する力を育てていきましょう。

### (2) キャリア教育の視点から見る公民科

社会的・職業的に自立するためには、現代の社会について理解し、それに基づいて自らの生き方や社会の在り方について考察することが欠かせません。したがって、公民科の学習は、高等学校のキャリア教育において、重要な役割を担っているといえるでしょう。

例えば、自らの労働や生活につながるものとして経済社会について理解を深めさせることや、主権者としての政治参加の重要性や裁判員としての司法参加の意義を考えさせ、社会の有為な形成者としての役割と責任を自覚させることは、この社会において「生きる力」につながります。また、具体的な雇用や労働問題、社会保障などの知識は、一人一人のキャリアを支える重要な基礎となります。卒業後に生徒たちが生きていく社会では、非正規雇用の増加など、労働者の職業生活を取り巻く環境が大きく変化しています。労働保護立法や社会保障制度などを、一人一人の将来の生活に直接関わる生きたものとして伝えることが大切です。また、生徒自身が望む働き方やワーク・ライフ・バランスを考えたり、社会全体にとってどのような雇用や社会保障の在り方が望ましいのかについて話し合ったりすることによって、生徒のキャリア発達を促すことができるでしょう。

以下は、キャリア教育と関連の深い『高等学校学習指導要領解説 公民編』の一部を引用したものです。

《現代社会》2 (2) ア 「自己実現と職業生活」については、現代社会の特質や社会生活の変化とのかかわりの中で職業生活をとらえさせ、望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けさせるとともに、自己の個性を発揮しながら新たなものを創造しようとする精神を大切にし、自己の幸福の実現と将来の職業生活や人生の充実について触れながら考察することが大切である。

《倫理》2 (3) ア 「自己実現と幸福」については、(中略) 職業生活について考えさせたり、生涯学習を含めた人生設計を考えさせたりすることを通して、望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けさせるとともに、個性を発揮し新たなものに創造的に取り組もうとする精神を大切に、よりよく生きることや生きがいについて思索を深めさせる。

《政治・経済》2 (3) ア 「雇用と労働を巡る問題」については、少子高齢化や産業構造の変化、規制緩和の進展などにより就業形態が多様化し労働市場が大きく変化していることなどを、日本の労使関係の特色、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割などに触れながら理解させる。

このような理解の上に立って、日本の労働市場の特徴とされてきた終身雇用制や年功序列型賃金体系、労使協調などにより雇用の安定を確保するという考え方と、規制緩和による就業形態の多様化、成果主義に基づく賃金体系、労使の新しい関係などにより労働力を効率的に活用するという考え方を対照させ、雇用の安定化と労働条件の改善という視点や仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の視点などから、今後の日本の雇用・労働政策の在り方について探究させる。

## 2 高等学校における公民科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力は、様々な公民科の学習活動を通して育成していくことができます。

### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する公民科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>生命倫理や科学技術の利用など価値判断の分かれる問題について、ディベートさせる。</li> <li>社会の課題について、グループで協力して、調査し発表させる。</li> <li>裁判員が参加する模擬裁判のロールプレイを、役割分担して進行させる。</li> <li>自分自身の悩みや体験を振り返り、先哲の思想を学ぶことを通して、他者と共に生きる倫理について、自覚を深めさせる。</li> <li>経済活動や政治参加、ボランティア活動などを通して、社会形成に関わることができることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者を取り巻く雇用情勢とその背景について学ぶことを通して、自らが置かれている社会的な状況について、理解を深めさせる。</li> <li>労働基準法をはじめとする労働法や相談機関について学び、労働現場で自らを守ることができる力を身に付けさせる。</li> <li>消費者問題や金融について学び、トラブルを避けて、自らの家計を維持するための基礎知識を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計などの資料を読み取り、分析する力を身に付けさせる。</li> <li>社会的事象に関する情報の検索の仕方を学び、複数の情報源からの情報を比較検討するなど、メディアリテラシーの能力を身に付けさせる。</li> <li>社会調査の方法を学び、調査結果をグラフやインタビュー記録などの形で整理して、自ら情報を生産し表現する力を身に付けさせる。</li> <li>調べた内容を、自らの考察を含めたレポートとしてまとめ、論理的に表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化が進む世界経済と日本経済の動向について理解させ、これからの産業の在り方、その中での様々な仕事の可能性について考えさせる。</li> <li>社会保障制度や就労支援の取組などについて理解させ、自らのキャリアが思うように進まない場合もそれらの制度や支援を活用できるように準備させる。</li> <li>労働や地域のボランティア活動への参加など、様々な社会への関わり方があることを理解させ、自らの生き方を考えさせる。</li> <li>中小企業と大企業から成る日本経済の二重構造について理解させ、産業の在り方について考えさせるとともに、中小企業の可能性にも目を向けさせる。</li> </ul>

一人一人の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の観点から、公民科の学習指導について見てみると、学習指導要領で示されている以下の三点が、とりわけ重要だと言えるでしょう。第一に、生徒が自己の生き方に関わって主体的に考察できるよう学習指導の展開を工夫すること。第二に、資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など、学び方の習得を図ること。第三に、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させることです。

学習方法を工夫することによって、社会について主体的に考察し、公民としての資質を養うという公民科の目標に近づくようにするとともに、キャリア教育の目指す基礎的・汎用的能力の育成を図っていきましょう。

### 3 実践例

#### 《現代社会》「雇用、労働問題」と「社会保障」を考える

##### ■ ねらい

具体的な労働問題のケーススタディなどにグループで取り組むことを通して、近年の雇用、労働問題の動向及び社会保障制度について、自らの労働や生活に関わるものとして理解するとともに、これからの社会における雇用や社会保障の在り方について主体的に考察する。

##### ■ 本実践とキャリア教育

中央教育審議会答申においても、特に重視すべき教育内容として「経済・社会の仕組みや労働者としての権利・義務等についての理解の促進」が取り上げられています。中でも、本実践のテーマである「雇用、労働問題」と「社会保障」は、キャリアを積み上げていく上で最低限必要な知識です。生徒が自らにつながるものとして捉えられるように学習の展開を工夫することが、広く社会から高等学校に期待されているといえます。この背景には、若者の完全失業率が全年齢に比べて格段に高く、若年の非正規雇用労働者も15歳から24歳までの雇用者のうち3割を占めて増加しているなど、若者の厳しい就労状況があります。卒業後には就職する者も多い高等学校段階において、本テーマの重要性は明らかです。

本実践では、基本的な知識を学んだ上で、グループで労働問題のケーススタディを行うことによって、人間関係形成能力を育成しながら、労働者の権利・義務や社会保障について自分に関わるものとして理解し、諸制度や法律を活用する能力を高める学習活動を展開していきます。さらに、雇用や社会保障の望ましい在り方について探究することを通して、社会の形成者としての自覚を深めることも目指します。

#### 《全体構想》

主な学習活動	時数
雇用の変化とその背景 【講義】	2
労働法と労働問題 【講義】	1
労働問題のケーススタディ 【グループによる調査・検討・発表】 何が法律違反か／解決のために自分でできること／相談機関など	1
自治体の労働相談センターの方にお話を伺う 【外部講師講義】	1
失業—その時の対応策を考える【グループワークによる調査・検討】 雇用保険の手続き／就労支援機関の利用／職業訓練／生活保護など	1
社会保障制度 【講義】	1
これからの雇用と社会保障制度／何が望ましいか【レポート作成】	2



＜特別活動（ホームルーム活動）＞  
生徒自身や生徒の身近な人が直面する労働に関わる問題をホームルームで検討する。  
〈総合的な学習の時間〉において労働問題を探究的に扱う中で実施することも考えられる。

#### 更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

「雇用、労働問題」「社会保障制度」について学ぶ際には、総合的な学習の時間を活用して、外部機関との連携を進めることも考えられます。地域若者サポートステーション、ジョブカフェ、ハローワーク、労働相談センターなど、若者の雇用や労働問題には様々な支援機関がありますが、生徒たちは名前を聞いたことはあっても、具体的なイメージはなく、実際に支援が必要な状況になっても利用につながらない場合が少なくない指摘されています。地域の就労支援施設や労働相談機関などを訪問し、お話を伺ったり、仕事検索や相談をしているところを見学したりする体験活動は、生徒のキャリアの転換点に重要な意味をもつでしょう。

また、家庭科における家庭経営の観点から、「失業」について考えてみることもできます。その際、多重債務問題など金融教育・消費者教育などにつなげることもできるでしょう。

## 《本時のねらい》

具体的な労働問題のケースについてグループで話し合い、労働基準法などの法律に違反している点はないか、違反している場合、どのような解決方法があるかを考える。

## 《展開》（4 / 9 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	労働法についての学習内容を確認する。 グループ分けし、担当ケースを決める。	○ 労働基準法の条文や厚生労働省「知って役立つ労働法」などを用意する。できれば、インターネットを使える環境を用意する。
展開	労働問題のケースを読み、グループで関係ある法律を調べ、対応を考える。	○ ワークシートに、法律違反、対応策を分けて、記入させる。
	<p>ケース1 コンビニエンスストアでアルバイトをしているSです。ある日、レジを閉めたら現金が1万円足りませんでした。店長は、「誰がミスしたかわからないから、アルバイトに入った4人で割り勘して払うこと」と言います。これでは、その日のアルバイト料より高くなってしまいます。しかたないのでしょうか。</p> <p>ケース2 就職して3年目のNです。仕事はやりがいがありますが、趣味も大切にしたいので、入社以来、年次休暇を使って月1回程度は休みを取り、趣味のツーリングに行っています。ところが、今年の4月に替わった営業所の所長から呼び出され、「君はよく休むね。やる気がないんだろ。君みたいなやつに会社にいてもらっては迷惑だ。この営業所で人を減らさないといけないんだ。君がやめてくれ」と言われました。どうしたらいいのでしょうか。</p>	<p>◎ グループで話し合い、協力して解決法を検討する。</p> <p>○ 労働相談窓口を検索させるなど、様々な対応の可能性のあることを示唆する。</p> <p>○ 発表に向け、グループでまとめを考えさせる。</p>
まとめ	各グループの考えた問題点と解決法を発表する。	☆◎ 実際に活用できるものとして、労働法を理解できたか。

## 《実践のポイント》

- ・ 自らのキャリアに関わることとして学べる工夫をしましょう。

実際に起きた労働相談のケースを取り上げる、インターネット調査でその地域の労働相談が可能な機関を調べてみるなど、実際に法律や制度を活用する場面を想定して、学習活動を展開するとよいでしょう。情報科との連携も考えられます。

- ・ ロールプレイの要素を取り入れることもできます。

一人が労働問題を抱えた相談者となり、他の人が解決策を話し合っ、相談者に提案します。提案される解決策について実際に実行できそうか、相談者が判断します。実行できない場合は、なぜできないのか、どうすればできるかなどを一緒に考えます。

# 数 学

## 1 数学科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1) 数学科の学習で身に付ける力

平成 21 年に改訂された高等学校学習指導要領では、数学科の目標を次のように定めています。

#### 第 1 款 目標

数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

前回の学習指導要領からの改善点として、小・中学校と同様に「数学的活動を通して」の部分が文頭に出されています。『高等学校学習指導要領解説 数学編』では「数学的活動」を数学学習に関わる目的意識をもった主体的活動と定義されています。「数学的活動」は数学を学習する方法としてだけでなく、数学の学習を通して身に付けるべき内容として捉えることもでき、今回の改訂で数学的活動を重視した指導が求められています。

#### 高等学校学習指導要領解説 数学編(第 3 章第 2 節 指導上配慮すべき事項 抜粋)

指導に当たっては、各科目の特質に応じ数学的活動を重視し、数学を学習する意義などを実感できるようにするとともに、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えたり、それを発展させたりすること。
- (2) 学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用すること。
- (3) 自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすること。

特に(3)については、小学校では「説明する活動」、そして中学校では「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動」(2・3年生)として重視されており、その上に立って高等学校においては言語活動を充実させる手法として「議論」する力の育成が望まれていることとなります。

### (2) キャリア教育の視点から見る数学科

(1) で述べたことは、キャリア教育の視点に立って考えると必要な態度だと考えられます。つまり、自らの考えを明らかにすることは自己理解・自己管理能力の育成につながり、また他者に分かりやすく論理的に伝えそして議論するということは、言語活動によるコミュニケーション能力や自己表現力の育成につながり、ひいては人間関係形成能力・社会形成能力につながっていきます。

今まで、高等学校数学科ではこのような態度の育成はあまり重要視されていなかったといえます。しかし、この視点を教科指導に取り入れると、数学の学習も密接にキャリア教育と関係していることが理解できるでしょう。特に、今回新たに学習内容に加わった「データの分析」(数学 I)や「課題学習」(数学 I, 数学 A)では議論する場面を持つことができます。「データの分析」では日常生活に関連した資料を扱い、現代社会の課題などについて考えをまとめ他者に発表したり他者と議論したりすることが考えられます。また、この分野では情報処理技術を頻繁に使うことから、教科「情報」の協力も必要になります。さらに扱うデータの内容によっては「保健体育科」や「家庭科」などとの連携も視野に入れるべきであり、数学を通して学習内容の広がりも大いに期待されます。



## 2 高等学校における数学科の指導内容とキャリア教育 －「基礎的・汎用的能力」を視点として－

高等学校数学科の必修科目は「数学Ⅰ」であり、課程や教科選択によっては2年生以降、数学から離れていく生徒もいます。しかし、学習指導要領では、「・・・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、・・・それらを活用する態度を育てる」は「数学活用」を除くすべての科目において共通しています。これは、まさにキャリア教育がその中心として育成すべき基礎的・汎用的能力にほかなりません。つまり、数学のどの科目においても、育成すべき能力は同じといえます。そこで、数学科の指導においても、キャリア教育の根幹となる基礎的・汎用的能力の育成の観点に立った指導を考えなければなりません。

### 「基礎的・汎用能力」の育成に特に関連する数学科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
新しい単元「データの分析」では他者の分析を聞くことにより多角的なものの方や考え方を身に付けることができます。特に、コンピュータを使って多くのデータを分析する際に、他者と協力し合って効率よくデータを入力したり処理したりすること、お互いに意見を出し合ったりすることは、コミュニケーション・スキルの育成につながります。	数学的活動の多くは、問題解決の形で行われます。そこでは粘り強く思考する態度が必要とされ、成就感や達成感などを基にして自信を高め自尊心を育む機会も生まれます。 自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動する力は、このように粘り強く考え抜いて問題を解決する経験を通して得られると考えます。	様々な課題について、数量などその数学的側面に着目して課題を数学的に表現し、処理して得られた結果を元の課題に戻してその意味を考えます。このようにして、それぞれの課題に対して数学的視点に立って積極的に対応する能力を育てます。	数学では、身近な事象を体系付けるために、仮定や仮説もしくは公理・定義を準備した上で、数学的考察や演繹的論証を展開し一つの定理を得ます。また、一つの定理から新たな定理を生むことも学習過程において知ることができます。この過程は一步ずつ階段を上っていくようなもので、このような一連の流れを学習することにより育成される視点は、自らのキャリアプランニングを形成していく際の重要な能力だと考えます。

高等学校の数学では、主に「代数」「解析」「幾何」「確率統計」を取り扱い、学年進行とともにスパイラルに学習していきます。これらは分離された分野ではなく、有機的な関係を持ちます。また、新学習指導要領において「数学Ⅰ」と「数学A」には「課題学習」が含まれており、各分野を相互に関連付けた内容を身近な生活などと関連付ける工夫が求められています。この「課題学習」を計画的かつ積極的に学習することにより、基礎的・汎用的能力を活用する態度の育成が期待できます。

### 3 実践例

#### データの分析（数学Ⅰ）客観的なデータの分析による物事の判断を行う」

##### ■ ねらい

身近なデータを基に平均値，分散，偏差などの意味を理解させる。また，ある生徒の成績評価について平均値以外の統計資料を基にその生徒の変化の度合いをグループ内で分析し合い，各自の判断が正しいか否かを議論し意見をまとめ発表する能力を養う。

##### ■ 本実践とキャリア教育

本単元では感覚で物事を判断するのではなく，客観的なデータを基に論理的に思考し自分の考えを深めます。また，自分の考えを他者に正しく伝えるとともに，他者の考えを理解しながら議論する力が育まれます。

#### 全体構想

主な学習活動	時数
1 データの整理と代表値 度数分布表・ヒストグラム・度数分布多 角形・平均値・中央値	3
2 四分位範囲と四分位数・四分位偏差 箱ひげ図	3
3 標準偏差 偏差と分散	3
4 散布図 相関関係・相関係数	4
5 データの分析・・・本時	2



＜特別活動（ホームルー  
ム活動）＞  
望ましい人間関係を形  
成し，学校やホームルー  
ム活動での生活によりよ  
く適応する。

#### 更なる充実のためにー他教科における学習との関連付けー

社会に出てからも，多くのデータを処理するのはコンピュータによることが多い現代です。そのためには，情報処理能力育成のために「情報」におけるコンピュータのスキルアップが重要です。従って，場合によっては「情報」の担当者とITを組んで指導することも効果があると思います。また，扱う統計値に「地理」や「化学」分野のものなどを入れると，本単元の有効性を知らせることができます。

## 《本時のねらい》

本単元で学んできたことの集大成としてグループでデータの分析を行い、その結果をグループ内で議論し、一つの結論を導かせ、それを他者へ理解できるように発表する能力を養わせる。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1 2年生の①運動部、②文化部、③部活動未加入者の男子生徒の中からそれぞれ無作為に選んだ40名のグループの1, 2年次スポーツテスト(シャトルラン・立ち幅跳び)のデータをグループ①, ②, ③それぞれ2班(計6班)に割り振り、平均・分散・標準偏差・相関係数を求める。	○ 配慮事項 ◎ キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆ 評価 ◎ 協力し合ってコンピュータ入力・確認させる。 ☆ 正しい計算式ができたか。
	2 班ごとにデータ分析を行う。	○ グループの特徴や特異な点を気付かせる。
展開	3 各班の分析結果を発表する。	☆ 他者へ理解できるように発表しているか。
	4 各班の分析結果を基に3つのグループの違いを分析する。	◎ 班員と協力して課題を見付け、解決策を考える。
	5 各班の意見を発表する。	◎ 他者が理解しやすい説明を心掛けるよう助言する。
まとめ	6 細かなデータ分析をすることにより、平均値だけでは見えない状況や課題が見つかることを知る。	◎ ☆多様な分析により状況を把握し、課題を見付けることができることを理解したか。

## 《実践のポイント》

- ・ **客観的なデータに基づく正しい判断をしているかを指導しながら進めましょう。**  
正しい判断をするためには、主観に惑わされるのではなく客観的な分析が大切であることを意識させましょう。コンピュータの活用については「情報」で学んだことを生かしましょう。
- ・ **自分の意見を持って議論し理解し合う活動を行いましょ。**  
協力し合って問題に取り組み、議論することによって多様な考えがあることを知り、課題やその解決策が見いだせることを実感できるようにしましょう。

# 理科

## 1 理科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

今日の科学や科学技術の発展はめざましく、その成果が社会の隅々にまで活用されるようになってきている。このように急速な進展に伴って、その変化に対応できるよう学習内容が見直された。また、科学や科学技術の成果と日常生活や社会との関連を重視し、理科を学ぶ意義や有用性が実感できるようにするとともに、生活の中で生じる様々な課題に対応する力を育成することが求められている。

### 高等学校学習指導要領解説 理科編 《抜粋》

#### 第1章 総説 第1節 改訂の趣旨 3 改訂の要点

「基礎を付した科目」は、理科に対する興味・関心を高め、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるため、日常生活や社会との関連を重視した。

#### 第2節 理科の目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

(中略)

「科学的に探究する能力と態度を育てる」とあるのは、自然の事物・現象の中から問題を見だし、観察や実験などを通して、科学的に探究する能力と態度を育てることを示している。これらの能力や態度を身に付けることは、変化の激しい社会の中で生涯にわたって主体的、創造的に生きていくために大切であり、「生きる力」の育成につながるものである。

## 社会

- 環境・エネルギー・医療など、日常生活には理科と関わりのある事柄がたくさんある
- 科学的思考力や判断力が求められる

生徒一人一人の社会的・職業的自立

科学的に考え、判断し、行動できる生徒  
新しい科学技術への対応

### 理科を学ぶ意義・有用性の理解を図る

- 理科で学んでいる内容が活用されている場面を伝える
- 理科を学ぶ面白さ・楽しさを伝える
- 理科を通じて培われる能力・態度を伝える

### 理科の学習

- ★ 自然や生命の大切さを学ぶ
- ★ 科学技術への関心、自然への理解を深める
- ★ 観察や実験などを通して、物を見る力、探究する能力と態度を養う
- ★ 科学的思考力、論理的思考力を養う
- ★ 科学的な知識を習得する
- ★ 現象などを説明するなど表現力を養う

## 2 高等学校における理科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

理科の学習で養う科学的な見方や考え方は、生涯にわたって生きていく上で欠かせないものである。理科の指導に当たっては、学習指導要領の主旨を踏まえつつ、社会的・職業的に自立するために必要となる能力である「基礎的・汎用的能力」の育成を視点として指導の改善・充実を図り、系統的・計画的に学習を進めることが大切である。

### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する理科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協力・協働して、グループで観察・実験を行う。</li> <li>実験レポート・観察記録の作成や発表により、互いの考えを理解し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の人間が、エネルギーや環境などについて考えて、主体的に行動することで、社会に貢献できることを理解し、知恵をもって行動する。</li> <li>自己の役割を理解し、主体的に観察・実験に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して、探究的に活動し、科学的に分析し、真理を見いだそうとする。</li> <li>情報を収集・整理して課題解決に活用する。</li> <li>グループでの協働作業がスムーズに進むように、作業の段取りを考え、適切に行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科で学んだことや科学的な考え方が様々な職業や社会生活と関連していることを理解し、自らの生き方に生かす。</li> <li>科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深め、科学的に考えようとする。</li> </ul>

私たちの生活の中には、理科で学ぶ様々な内容がたくさんあふれている。科学の原理や法則を利用した道具も多く使用されている。人類の進歩は、科学技術の進歩とともに発展してきており、現代社会にあっては、特に、高度な技術がごく身近で活用されている。

理科の学習では、実験や観察などを通して、探究する能力や態度を身に付けることが求められている。新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す現代社会では、新しい知識や情報の真偽を科学的に判断することや、筋道を立てて理解するのが必要な事態がしばしば起こる。生涯にわたって、主体的、創造的に生きていく上で、探究する能力や態度を身に付けることは、必要不可欠である。

環境保全の意識を持ち、安全で健康な生活を過ごすために、一人一人が自然と人間の調和のとれた生き方を考えなければならない。その上でも、理科を学ぶ意義は大きく、一人一人のキャリアを考える際、理科で学ぶ内容は非常に大切である。

## 3 実践例

## 《化学基礎》化学と人間生活とのかかわり

## ■ ねらい

生活を支える物質として、その特性を生かして使われている金属やプラスチックが、様々な化学の研究成果に基づいて製造されていることや再利用されていることを学び、物質を対象とする学問である化学への興味・関心を高め、化学の学習の動機付けとすること、また、洗剤や食品添加物など日常生活や社会で使われる物質の性質に注目させ、これらの物質の化学的な働きを理解させるとともに、有効性と危険性の評価に基づいた適切な使用量について考察させ、化学が果たしている役割を理解させることがねらいである。

## ■ 本実践とキャリア教育

理科と産業や職業との関わりについて、理解させることができるようにする。さらに、理科の学習で養う科学的な見方や考え方が様々な職業にも生かされていることに触れ、将来の社会生活との関連の中で、理科を学習する必要性や大切さを理解させるようにする。

## 《全体構想》

主な学習活動	時数	
「化学基礎」の導入 物質の性質が社会生活を支えている事などに 触れ、化学を学ぶことの意義を考えさせる。	1	現代社会 「私たちの生きる社会」 資源問題や環境問題
人間生活の中の化学 ・ プラスチックや繊維について 日常にあるプラスチックを持ち寄り、分類する。	1	
・ 金属の利用	1	
科学とその役割 ・ 洗剤と環境 洗剤の使用量による有効性と危険性について	0.5	
・ 生命と物質 利便性の追究と、健康や環境に対する影響について理解を深める	0.5	

## 更なる充実のためにー他教科における学習との関連付けー

化学で取り扱う物質は、生活の中で様々に利用されており、他教科での学習との関連を知ることで、生徒の学習意欲を喚起するとともに、効果的に学習を進めることができる。例えば、芸術科において、金属の性質を利用した工芸品の制作について学習していることに着眼すれば、彫金などの芸術家、文化財の保護に関わる職業、楽器の製作やリペアなどの職業に気付かせることができる。

## 《本時のねらい》

物質は、温度変化によって状態を変化させることができることを利用し、金属を加工する。金属が持つ延性、展性の性質を理解し、その性質を利用して形を変形させ、結果として、日常生活で金属が大いに利用されていることを知る。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	1 身の回りの金属名を挙げる。 2 日常で金属材料が利用されているものを挙げる。 3 金属のどのような特徴が日常に利用されているのか考えることで、金属の特徴を捉える。	○ 日常生活で、金属がたくさん利用されていることを理解させる。 ○ 金属の性質について理解できたか確認する。
展開	4 金属の特徴を踏まえて、どのように加工できるかグループで話し合う。 5 日常にある製品がどのようにできたかを考える。 6 低融点金属を利用し、鑄造を実験する。 ・ 配布した粘土に型押しし、そこに温めた低融点金属を流し込み、放冷する。 7 資源を回収し、それを溶融させて再利用できることを理解する。ネット動画などを利用して、アルミニウムが溶融する様子を見る。	○ <small>ちゅうぞう</small> 「鑄造」、 <small>たんぞう</small> 「鍛造」の加工法に気づかせる。 ○ 貨幣、アクセサリー、大仏などの像、自動車・オートバイ・船舶などの部品、マンホールや街灯などを例示する。 ○ 安全に配慮し、実験を行う。 ◎ 環境保全に対する意識を持たせるよう努める。
まとめ	8 鑄造、鍛造に関わる職業を考え、その職業について次回の授業までに調べる。 9 本時の学習を振り返り、わかったことと感想をまとめる。	◎ 刀鍛冶 <sup>かじ</sup> 、金属プレス職人、製鉄工場従業員、軽金属工場従業員などの職業を例示する。 ☆ 日常生活や職業と関連させながら、物質について学ぶ意義を実感できたか。

## 《実践のポイント》

- ・ 日常生活と社会を支えている職業について考えさせる。

日常生活や将来との関わりの中で、物質について学ぶ意義を実感するとともに、職業や今後の学習と関連付けて、更に学んでいこうとする意欲を高める工夫をする。

## 保健体育

### 1 保健体育科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

#### (1) 保健体育科の目標とキャリア教育

平成 21 年 3 月に改訂された高等学校学習指導要領の保健体育における「目標」の中に、「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことが位置付けられ、保健体育科での学習と将来の生活との関連性が明示されました。また、各科目における目標には、例えば「公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め（体育）」、「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる（保健）」など、生徒一人一人の今後の生活の基盤となる資質や能力を育てることが保健体育科の柱の一つになっていることがわかります。

ここでは、保健体育科の目標のうち、キャリア教育とも関連の深い「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる」及び「健康の保持増進のための実践力の育成」によって培われる「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことに焦点を絞って、『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成 21 年 12 月）における解説を引用してみましょう。

#### 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編《抜粋》

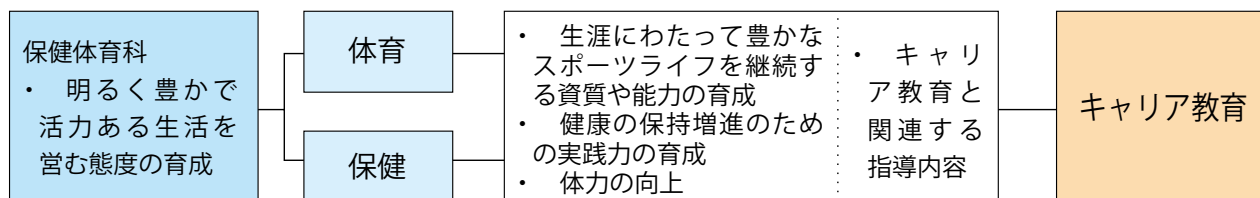
「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」とは、(中略) 公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的・計画的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。これらの資質や能力を育てるためには、学習に対する主体的な取組を促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、実生活、実社会の中などで卒業後においても、継続的なスポーツライフを営むことができるようにすることを目指したものである。

「健康の保持増進のための実践力の育成」とは、健康・安全について総合的に理解することを通して、生徒が現在及び将来の生活において、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を培い、実践力の育成を目指すことを意味している。(中略)

「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」とは、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てることによって、生きがいを持ち、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするという教科の究極の目標を示したものである。

上に引用した解説が示すように、保健体育科における学びは「実生活、実社会の中などで卒業後においても、継続的なスポーツライフを営む」・「現在及び将来の生活において、健康の保持増進のための実践力を育成する」ことができるよう指導することが肝要ですし、「現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことは、保健体育科の究極の目標として示されているのです。つまり、保健体育科の目標の達成を目指した指導の充実は、キャリア教育で充実させたい力の育成にも寄与しているのです。

#### (2) 保健体育科の実践とキャリア教育の関係





## 2 高等学校における保健体育科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

「現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことを究極の目標とする保健体育科においては、キャリア教育と密接に関連する多くの指導内容があります。また、保健体育科を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の基盤としても極めて重要であると言えるでしょう。

以下の表は、社会的・職業的な自立のための基盤としての「基礎的・汎用的能力」の育成に関連の深い保健体育科の指導内容を例示したものです。

### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例

科目／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
科目体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>人にはそれぞれ違いがあることを認め、仲間の演技のよさを指摘したり、仲間の技能の程度にかかわらず、課題を共有して互いに助け合ったり教えあったりする。</li> <li>話し合いなどでグループの学習課題等についての意思決定をする際に、相手の感情に配慮して発言したり、仲間の意見に同意したりしてグループの意思決定に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行う。</li> <li>けがを未然に防ぐために必要に応じて、危険の予測をしながら回避行動をとる。</li> <li>自己や仲間の健康を維持したり安全を保持したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を踏まえて、目標に応じた自己やチームの課題を設定する。</li> <li>課題解決の過程を踏まえて、自己やチームの課題を見直す。</li> <li>仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。</li> <li>健康・安全を確保・維持するために、自己や仲間の体調に応じた活動の仕方や自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動において実生活、実社会の中で継続しやすい運動例を選ぶ。</li> <li>運動を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付ける。</li> </ul>
科目保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期における自分の行動への責任感や異性を尊重する態度、及び性に関する情報等への適切な対処などの必要性について考える。</li> <li>結婚生活を健康に過ごすために、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援などの必要性について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯の各段階における健康課題を見付け、自らこれに適切に対応したり、保健・医療制度等を活用したりするなどの解決方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働が深く関わっていること、それらと健康に関わる活動や対策について理解を深める。</li> </ul>

### 「専門教科体育における取組」

体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことです。スポーツへ主体的に取り組む意欲やスポーツを広い視野で捉える理解力等が求められ、基礎的・汎用的能力の育成に関連する項目もより多くなると考えられます。

### 3 実践例

球技：作戦や戦術の理解を深め、状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めた攻防を楽しもう。

#### 球技：ゴール型（ハンドボール）

##### ■ ねらい

- 仲間と連携した動きによって相手ゴール前への侵入などから、意図的に得点をねらう攻防を展開できるようにする。
- フェアなプレイを大切にすることや、合意形成に貢献しようとすることに主体的に取り組むことができるようにする。
- 課題解決の方法を理解し、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

##### ■ 本実践とキャリア教育

ハンドボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートをして一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームです。

チームや個人の課題を設定し解決しながら練習やゲームに取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしたり、合意形成に貢献しようとしたりする態度の育成も大切な学習内容です。こうした学習の中で、キャリア教育で身に付けるべき「基礎的・汎用的能力」の人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力の育成が期待されます。

#### 《全体構想》

主な学習活動	時数	
オリエンテーション（チーム分け、役割分担、学習ノート）	1	
<b>共通学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 攻防の基礎となる安定したボール操作や、空間を作り出すなどの連携した動きを身に付けてゲームをしよう。</li> <li>・ チームの話合いで、チームや自己の課題の解決に向けて、話合いに責任をもってかかわろう。</li> <li>・ 練習相手になったり、課題解決のアイデアを伝え合ったりしながら取り組もう。</li> </ul>	6	<総合的な学習の時間> 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。  <特別活動（ホームルーム活動）> コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
<b>課題別学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術や作戦、戦術の行い方や高め方の理解を深めよう。</li> <li>・ 仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘しよう。</li> <li>・ チームの話合いで、チームや自己の目標や成果を検証し、課題や練習方法を見直そう。</li> <li>・ 学習の成果をまとめよう</li> </ul>	10	

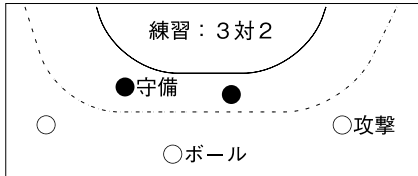
#### 更なる充実のために－他教科における学習と関連付けた指導－

本単元を通したキャリア教育を更に充実させるためには、国語科の「国語総合」の「話すこと・聞くこと」での学習の成果を体育の話合いの際に活用することも有効と言えるでしょう。学習に関連性を持たせることで、課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うことに貢献できると考えます。

《本時のねらい》

- ・ チームの話合いで、合意形成に貢献することができる。
- ・ ボール保持者がプレイしやすい空間を作り出すために、必要な場所にとどまったり、移動したりすることができる。

《展開》(4 / 17時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	1 集合、挨拶、出席確認、健康観察 2 チームでの準備運動(ランニング、ストレッチ、2人1組でのルーズボール)	◎ 多角的に検討し、根拠に基づいて自分の考えを明確にすること。
展開	3 ボール操作の練習 シュート、パス・キャッチ、ドリブル 4 本時のねらいの確認  ○ チームの話合いに主体的に参加して合意形成に貢献しよう。 「ボール保持者がプレイしやすいようにするには、ボールを持っていない者はどのような動きをすればよいだろうか？」 ○ 有効な場所に移動する。 ○ 必要な場所にとどまる。	◎ 相互の信頼関係を高めるためには、相手の感情を尊重しながら発言したり、提案者の発言を尊重したり、建設的な修正意見を提案したりしながら話合いを進めることが大切であることを確認する。
	5 課題の確認とその解決を図る練習 ◆ チームの話合い① ◆ 攻撃側が優位(3対2)の状況で、AやBの状況を作り出す練習  6 両チーム同数(3対3)の状況で、AやBの状況を作り出すゲーム ◆ チームの話合い②	チームの話合い① [チームの状況に応じて話し合う内容を選択する] Aチームで「相手を引きつけてから切り返す動きなど、有効なポジションを取る」動き方のアイデアを考えよう。 Bチームで「ボール保持者がプレイできる空間を作り出すために、ボール保持者から相手を引き離す」ための動き方のアイデアを考えよう。 ◎ キャプテンを中心に話合いを進め、内容を整理し取組を決める。 チームの話合い② ◎ ゲームの分析から、本時で取り組んだ課題や練習について、自己の考えを述べたり、仲間の話を聞いたりして、次時の予定について学習カードにまとめる。
まとめ	7 整理運動、用具の片付け 8 本時のまとめ ・ 振り返りと次回の学習の予告	☆ チームや自己の課題解決に向けた話合いで、合意形成に貢献しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○ チームで出た意見を発表させる。

《実践のポイント》

- ・ 体育の学習に内包された態度の学習内容が引き出せるよう授業の流れを作りましょう。
- ・ 相互の信頼関係を高めるためには、相手の感情を尊重しながら発言したり、提案者の発言を尊重したり、建設的な修正意見を提案したりしながら話合いを進めることなどが大切であることを理解し、取り組めるようにしましょう。